

第1回伊佐市総合振興計画審議会

日 時：平成28年6月2日（木）14:00

場 所：大口庁舎2F 大会議室

1 開会

2 報告

- ▶ 審議会委員の変更について

3 議事

- (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
 - ・ 平成27年度実施分の事業報告及び効果検証
(地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)関連)
- (2) 今年度の取組み状況について
 - ・ 平成28年度実施分の事業の取組み状況
(地方創生加速化交付金関連)

4 閉会

伊佐市総合振興計画審議会委員名簿

区 分	所属団体等	氏 名	備考
学識経験者		わかまつ おさみ 若松 修身	会長
学識経験者	伊佐市コミュニティ連絡協議会	みやのほら おさむ 宮ノ原 修	職務代理者
学識経験者	鹿児島銀行大口支店	にのみや のぶたか 二ノ宮 布好	
学識経験者	南日本銀行大口支店	たのうえ たけし 田之上 健	
女性代表	国際ソロプチミスト大口伊佐	なかむら のぶこ 中村 宣子	
農業団体代表者	伊佐市認定農業者の会	とどろき たかあき 轟木 高昭	
農業団体代表者	伊佐市肉用牛振興会	い き きよじ 壹岐 清次	
農業団体代表者	J A北さつま県認証伊佐米推進部会	まさもと あいと 政元 愛人	
教育委員		ながの のりお 長野 則夫	欠席
商工会代表者	伊佐市商工会	うちむら つのる 内村 募	
観光協会代表者	伊佐市観光特産協会	しもこぞの みつる 下小菌 充	
福祉団体代表者	伊佐市社会福祉協議会	すおはら かずお 周防原 一雄	
社会教育団体代表者	伊佐市文化協会	ひらかわ せいいち 平川 聖一	欠席
社会教育団体代表者	伊佐市PTA連絡協議会	なかむら てつや 中村 哲也	欠席
社会教育団体代表者	伊佐市青年団	にしだ のりひで 西田 教秀	
その他市長が認める者	I S A R T	まえだ ただあき 前田 忠亮	
その他市長が認める者	国分公共職業安定所大口出張所	やなぎだ ひろみ 柳田 弘美	

● **平成 26 年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）**
対象事業の効果検証について <明許繰越により平成 27 年度に実施>

方法・体制： 外部有識者を入れた総合戦略推進組織を設置し、事業について PDCA サイクルによる検証を実施

計画策定時の予算、KPI など

① **地方版総合戦略策定事業**

国の長期ビジョンと総合戦略を勘案して、近隣市町村と連携し、地域の特性を踏まえ、今後の展望を見据えた「地方版総合戦略」を策定する

交付対象事業に要する費用 1,000 万円

総合戦略策定にかかる経費

- ・ 戦略取りまとめコンサルタント経費
- ・ 外部有識者を含む総合戦略検討会の運営費
- ・ 総合戦略検討組織委員の先進地視察経費
- ・ 事業実施に係る臨時職員経費

② **廃校を活用した安心と活力ある地域拠点創造事業**

子育て支援、多世代・多地域交流及び地域産業活性化に係る拠点を廃校となった中学校校舎等を活用して設置し、子育て世代と高齢者・障がい者の支え合い、農業従事者と企業との協働や企業就労者の子育てサポートの場とする。これにより、若い世代の定住促進と 6 次産業化の促進、交流人口の増加を図る。

交付対象事業に要する費用 3,550 万円

- ・ 子育て支援事業、交流事業の実施のための事業委託
- ・ イベント等の実施
- ・ 地域産業活性化のための起業・創業支援事業
- ・ 農産品等の販売イベント等の実施
- ・ 上記事業を行うための施設管理業務委託
- ・ コーディネーターの配置
- ・ 教室、トイレ等の改修（1,770 万円）

設定した重要業績評価指標（KPI）

- 拠点を利用した人数 4,000 人
- 定住・移住相談者数 10 人
- 1 月あたりの出生数 19 人

③ **竹林資源活用推進事業**

市内に多数存在する竹林（248ha）にある竹をパルプ用材として活用するため、市内の竹チップ加工場に伐採・搬送された竹材の買い取り価格を補助金により上乘せすることで、竹材の搬出を増やし、竹林の整備を適正に促す。これにより、雇用を創出して従業者の所得向上につなげるとともに、竹林の拡大を防止し、杉・ヒノキ等が植栽された人工林を守り、市の面積の約 30 パーセントを占める山林の美しい環境を作り出す。

交付対象事業に要する費用 406.8 万円

- ・ 市内にある竹材のチップ加工場事業者に対する買い取り補助 1 キロあたり 2 円
2 円×2,000 トン=4,000 千円

設定した重要業績評価指標（KPI）

- 助成対象取引量：2,000 トン
- 助成対象となる山林の所有者数：100 人

各対象事業の実績報告（概要）

① 地方版総合戦略策定事業

- ・ 審議会（計5回開催）
- ・ 審議会メンバーによる先進地視察（兵庫県豊岡市）
- ・ 市民向けワークショップ（計2回開催）
- ・ 高校生向けワークショップ（市内3校を対象に計12回開催）
- ・ パブリックコメントの実施
（議会での説明）
（市役所本部会議での説明）
（市役所係長クラスを対象にしたワークショップ）

成果品

伊佐市人口ビジョン・総合戦略冊子
伊佐市人口ビジョン・総合戦略概要版（市内全戸に配布）

総事業費 1,052.9万円

- ・ 戦略取りまとめコンサルタント経費
- ・ 外部有識者を含む総合戦略検討会の運営費
- ・ 総合戦略検討組織委員の先進地視察経費
- ・ 事業実施に係る臨時職員経費

② 廃校を活用した安心と活力ある地域拠点創造事業

- ・ 拠点づくりに係る関係者等との連携・調整会議
- ・ 「伊佐市総合交流拠点施設」の改修工事
- ・ 子育て支援施設「ルピナス」の設置
- ・ 市民参加型のワークショップの開催
- ・ 手漉き和紙制作ワークショップの開催
- ・ ピザ窯・かまどの制作・およびワークショップの開催
- ・ 交流拠点施設の愛称募集および愛称選定
- ・ 伊佐市総合交流拠点施設オープニングイベントの実施
- ・ 子どもたちが自ら手漉きした和紙の卒業証書の制作
- ・ 大口高校と大口明光学園の生徒による総合戦略の具体的な事業プランの発表
- ・ ジップラインの設置検討業務
- ・ 紙を使ったモビール制作ワークショップの実施
- ・ ツリーハウスクリエイター、小林崇氏によるトークショーの実施
- ・ クライミングルートの開発やボルダリングウォールの設置検討業務
- ・ アウトドア関連のメーカー、モンベルとの連携・調整
- ・ 木工技術を使った商品づくりの可能性調査
- ・ 老舗アウトドアライフマガジン「BE-PAL」（小学館）大澤竜二編集長によるトークショー、キャンプの実施

成果品

伊佐市総合交流拠点施設オープニングイベント告知フライヤー（市内全戸に配布）
伊佐市総合交流拠点施設の広報パンフレット（市内全戸に配布）
「アウトドアトーク at 伊佐市」の告知ビラ・ポスター（市内全戸に配布）
ジップラインの設置提案書
小林崇氏によるトークショーのプレゼン資料
クライミングルートの開発やボルダリングウォールの設置に向けた報告書

総事業費 4,224.2万円

- ・ 子育て支援事業、交流事業の実施のための事業委託
- ・ イベント等の実施
- ・ 地域産業活性化のための起業・創業支援事業の実施
- ・ 上記事業を行うための施設管理業務委託
- ・ コーディネーターの配置
- ・ 教室、トイレ等の改修 (2,349.1万円)

27年度末の重要業績評価指標（KPI）の実績値

- 拠点を利用した人数 1,255人
- 定住・移住相談者数（伊佐市体験住宅の利用実績）42件、103人
- 1月あたりの出生数 15.5人

※ 「伊佐市総合交流拠点施設（e-G a なんちゅう）」は、当初の計画では10月にオープンする予定であったが、廃校を活用した施設であるため文部科学省の許可が必要で、これが遅れたことが原因で、4ヶ月遅れの平成28年2月6日にオープンした。上記の実績値は約2ヶ月間でのもの。10月にオープンしていれば、単純計算で3,765人となり、ほぼKPIを達成していた計算になる。

また、4月には口蹄疫対策の関係で会場をe-G a なんちゅうに変更した「農林館祭り」が実施された関係で1ヶ月間に2,000人を超える利用者があった。総合戦略では、具体的な施策⑩として、e-G a なんちゅうでの伊佐独自の教育プログラム（出身著名人を活用したセミナー、和紙や窯作り、薪割り、ツリーハウスなどのものづくり体験、山林探検ツアーなど）の実践を掲げており、市民（住民、事業所、地域、団体等）が主体となった各種のプログラムの実施を働きかけている。

重要業績評価指標（KPI）としては、e-G a なんちゅうでの伊佐独自の教育プログラムの開催件数：平成31年度までに100回以上を設定しており、引き続き広報などに注力していくことで、KPIを達成できるようにしていく。

なお、定住・移住相談者数と捉えることが可能な、伊佐市体験住宅の利用実績は、平成26年度が29件、84人であったので、着実に増加している。

1月あたりの出生数は、平成25年度が17.5人、26年度が16.9人なので大きく数字を下げている。出会いの場を早急に創出して婚姻数を増やしていかないと、出生数の増加は期待できない。

③ 竹林資源活用推進事業

市内にある竹材のチップ加工場事業者に買い取り補助を1キロあたり2円、実施した。

総事業費 110.4万円

2円×512.31トン=1,024,620円 その他は竹紙製品の購入費

27年度末の重要業績評価指標（KPI）の実績値

- ・ 助成対象取引量：512.31トン（整備面積は約12ha、市内の竹林248haの約5%）
- ・ 助成対象となる山林の所有者数：30人

※ 当初のKPIは2,000トンであったが、平成27年8月に台風による被害があり、竹林の整備に支障が出て、数値は達成できなかった。ただし、平成26年度の実績を踏まえた27年度の目標値である450トン、20人は上回る結果となった。総合戦略で設定したKPIは、平成31年度で920トン。平成27年度末から取引量が増加傾向にあるので、竹材利用組合（仮）の設立や機材等の支援を行うことで、KPIの達成は可能だと考えている。

平成 28 年度のまち・ひと・しごと創生総合戦略に関する取組み状況について

◆ 地方創生加速化交付金（国の交付金）

① 曾木の滝・大鶴湖・川内川を活用した自然体験型DMO観光推進事業 <3,018 万円>

（さつま町との連携事業：5,368 万円 うち伊佐市分 3,018 万円）

○ DMO設置に係る検討・調査に要する経費 668 万円

- ・ 協議会運営経費（謝金、事務用経費、視察旅費）368 万円
- ・ 設置検討に係るコンサルティング経費 300 万円

○ DMO設置による川内川流域の観光の基礎調査 1,900 万円

- ・ 観光マーケティング調査経費 500 万円
- ・ 観光メニュー開発に係るコンサルティング経費 300 万円
- ・ 観光メニューの検証イベント・ツアー実施経費 100 万円
- ・ 人材育成プログラム策定経費 300 万円
- ・ DMO運営経費（半年分）700 万円

○ DMO設置による川内川流域の観光交流人口増加プロジェクトに向けた情報発信・コンテンツマーケティング 2,800 万円

- ・ 観光メニュー開発を軸にしたブランディング戦略策定 300 万円
- ・ 情報発信・コンテンツマーケティングの拠点となるWEBサイト・コンテンツ制作 2,500 万円

② 屋台村を活用した「婚活」と「まちの賑わい」事業 <1,200 万円>

○ 屋台村開催に係る検討経費 20 万円

- ・ 協議会運営経費（謝金、事務用経費）

○ 新しい出会いの場の創出に関する検証経費 480 万円

- ・ 検証を行うイベント開催に係る経費 400 万円
- ・ 結婚希望者の意向調査経費 30 万円
- ・ 出会いの場創出に係るコンサルティング経費 50 万円

○ 「ピザのまち」推進のためのコンテスト経費 700 万円

- ・ コンテスト経費（企画・設計、実施）400 万円
- ・ 屋台村イベント参加者を対象とした評価測定調査 300 万円

◆ 市の単独事業

① 特用林産事業（竹林資源活用推進事業） <200 万円>

補助金 200 万円 ～ 2 円×1,000 t 分

② 伊佐市総合交流拠点施設管理事業（e-Ga なんちゅう） <624 万円>

需用費 145.7 万円（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）

～ 管理に必要な消耗経費 ※ 6 月補正予算にて修繕料等を約 100 万円増額予定

役務費 17.3 万円（通信運搬費、手数料）～ 電話料、水質検査

委託料 461 万円（施設管理委託）

～ 管理業務 331.3 万円、浄化槽管理、受水槽等清掃、消防用設備等点検
備品購入費 32.4 万円 ～ AED 1 台

●平成 28 年度第 1 回伊佐市総合振興計画審議会議事録

日時：平成 28 年 6 月 2 日（木）14 時～16 時

場所：伊佐市役所大口庁舎 2 階 大会議室

1 開会

あいさつ 伊佐市企画政策課長 有菌 良介

2 報告

・審議会委員の変更について

新任委員紹介 学識経験者 南日本銀行大口支店 田之上 健

社会教育団体代表者 伊佐市 PTA 連絡協議会 中村 哲也

社会教育団体代表者 伊佐市青年団 西田 教秀

その他市長が認める者 国分公共職業安定所大口出張所 柳田 弘美

3 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

・平成 27 年度実施分の事業報告および効果検証

伊佐市企画政策課政策第 1 係長 小倉 史郎

配布資料①：平成 26 年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)対象事業の効果検証について<明許繰越により平成 27 年度に実施>

日経 BP 社 日経 BP インフラ総合研究所プロデューサー 高津 尚悟

配布資料②：廃校を活用した子育て・交流・産業振興拠点づくりコーディネート業務報告書

配布資料③：廃校を活用した子育て・交流・産業振興拠点の展開業務報告書

(1-1) 審議（質疑応答を含む）

委員：告知になるのだが、総合戦略の達成に向けて、「いさのば」が主催する形で出会いの場の創出を兼ねたマルシェを 7 月 2 日に e-Ga なんちゅうで実施する。平成 27 年度に整備した e-Ga なんちゅうを今年度も有効活用していきたい。

BP 社：出会いの場の創出を兼ねたイベントは平成 28 年度の事業にも組み込まれており、既存のイベントである屋台村などにも組み込む形で年間に 4 回実施する計画になっている。

委員：竹林資源の活用推進事業についてはどうか。

市：竹林資源活用推進事業は市の単独事業として平成 28 年度も継続する。後ほど説明するが配布資料④にもあるように 27 年度の実績を上回るように KPI を設定し推進していく。

委員：伊佐がアウトドアを核にしたまちづくりを推進していることがよくわかった。そこでお願いがあるのだが、是非、市内の奥十曾にある源流ツアーの企画を進めてもらいたい。

BP 社：平成 28 年度に自然体験型 DMO 観光推進事業をさつま町と連携する形で進めている。この中で、是非、検討していきたい。

委員：和紙体験は今後も継続できるのか。

市：伊佐独自の展開を図るには、地元での原料の調達を含めて考えていく必要がある。そのあたりも含めて検討していきたい。

BP 社：和紙の原料となるガンピを探すことなどを、先ほど指摘があった源流ツアーなどと組み合わせて考えていきたい。

委員：伊佐はさつま町に比べると竹林が荒れている。もっと整備を進める方策として、例えばさつま町のように竹林資源を活用した製品などの開発はできないものか。

市：竹パルプ用の資源として、現在も活用している。これに加えて、食などとも関連した新しい伊佐の名産品などを生み出すことができないか、引き続き検討していきたいと考えている。

BP 社：アウトドアのまちづくりなどと連動して、山に人を入れていく観点で企画を進めていきたい。その中から 6 次産業化なども含めて、竹製品などの検討を進めていきたい。

委員：伊佐の魅力の一つは寒さ。冬のキャンプは面白いと思う。冬の星空の美しさは特筆すべきもの。天体観測なども含めて企画を進めてほしい。

BP 社：総合戦略の概要版の表紙に使った星空は、まさに十曾のキャンプ場で撮影したもの。伊佐の魅力を伝える強力なコンテンツとしてこれからも積極的にアピールしていきたい。

議長：e-Ga なんちゅうにはまだ教室が残っているのか。ふれあいセンターなどで退職した教員などの会を今も実施しているが、教室が残っているのなら e-Ga なんちゅうでやったほ

うが雰囲気も良いと思うのだが。

市：3階は現在、法規上の問題で使えないが、2階までは自由に使えるので、是非活用してほしい。

委員：アウトドアのまちづくりというと、女性にとっては少し絡みにくくなる場所もあるように思う。e-Ga なんちゅうなどを活用して、竹細工とか焼き物づくりといった、女性が楽しめるようなコンテンツにも力を入れてほしい。

(2) 今年度の取組み状況について

- ・平成28年度実施分の事業の取組み状況

伊佐市企画政策課政策第1係長 小倉 史郎

配布資料④：平成28年度のまち・ひと・しごと創生総合戦略に関する取組み状況について（地方創生加速化交付金）

(2-1) 審議（質疑応答を含む）

委員：伊佐はピザのまちを打ち出しているが、できれば伊佐の食材をイベントなどの際にセットで販売してはどうかと思う。

BP社：ピザは多様な食材を組み合わせることでアピールできるものだととらえているので、是非、ご指摘の点も含めて企画を推進していきたい。

委員：DMOの成功事例というのはあるのか。

BP社：DMO自体が日本ではまだ新しい取り組みなので、これという事例はまだ少ない。ただし、伊佐の近隣でいえば、DMOの概念が導入される前から活動してきた薩摩川内市の観光協会の取組みは一定の実績を残している。また、伊佐とさつま町が連携したDMOと同じタイミングで大隅広域観光協会（仮称）がDMOの設立に向けて動き出している。こうした動きを含めてDMOとはなにかという勉強会を明日、ふれあいセンターで開催する。

委員：DMOは協議会方式だが、出会いの場の創出事業についてはどういった体制で推進するのか。

市：出会いの場の創出事業についても伊佐にある各種団体による協議会を立ち上げて推進

していく。

委員：出会いの場の創出事業を年に4回実施することだが、マンネリ化しないか心配だった。協議会などがあるのなら、そこに若手を送り込むなどして、意見を出してもらいながら協力していこうと思う。

委員：出会いの場づくりが前面に出されると、中高年からはちょっと腰が引けてしまうところもある。そのあたりにも配慮してほしい。

BP社：イベントはかならずしも婚活だけをやるわけではない。中高年の方々も参加できる既存のイベントを活用しながら、その中で出会いの場の創出も組み合わせたいという仕組みになっている。マンネリ化の防止を含めて、若い人たちのアイデアなども盛り込みながら、実効性のある事業として推進していきたい。

4 閉会